

病害虫発生予察情報 4月予報 概要版 (令和8年4月8日発表)

群馬県農業技術センター (病害虫防除所)

★ 4月2日発表 気象の1か月予報 (気象庁発表)

平均気温は高い確率80%、降水量は多い確率60%、日照時間は少ない確率50%です。

★ 4月の病害虫予報 注目ポイント!!



麦類 赤かび病 ……発生時期：早い 発生量：やや多い

今後、気温が高いことが予報されており、出穂期が早くなることが予測されます。ほ場ごとの出穂状況を確認し、適期を逃さず、2回の防除を行いましょう (防除適期は【コラム】)。



ナシ 赤星病 ……発生時期：やや早い 発生量：やや多い

ナシへの感染が平年より早くなると予想されます。今後、発生に好適な気象が予報されていますので、適期を逃さずに防除を行いましょう。



イチゴ アザミウマ類 ……発生量：やや多い

現在までの発生量は平年並ですが、一部でやや多くなっています。気温の上昇に伴い増加するので注意しましょう。薬剤抵抗性はアザミウマの種によって異なるので、効果がある薬剤で防除しましょう。

【コラム】 赤かび病の防除適期 ～2回の防除の徹底を～

- 赤かび病が発生した場合、被害粒の混入割合やカビ毒の基準値を超える麦は流通できなくなります。そのような事態にならないよう、2回の防除の徹底をお願いします。

【1回目の防除適期】

- 小麦：出穂期 7～10日後頃 (開花始期～開花期)
- 二条大麦：出穂期 12～14日後頃 (穂揃い期の10日後頃、葯殻抽出始め)
- 六条大麦：出穂期 3～5日後頃 (開花始期～開花期)

【2回目の防除適期】

- 1回目の防除から10日後頃



- 流通できなくなる麦類の基準

- 食用麦：赤かび粒混入割合基準 (0.0% = 10,000粒に4粒) を超えるもの
- 小麦：デオキシニバレノール (DON) 濃度が1.0mg/kgを超えるもの

裏面へ続く



【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	発生量	特記事項
作物全般	アブラムシ類	並	各種トラップへの誘殺数は平年並～やや少ない。
イネ	縞葉枯病	並	令和8年2月に採集したヒメトビウカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は1.8%で平年より低かった。 イネ縞葉枯病感受性品種を栽培する場合、ヒメトビウカに効果がある箱施用剤を使用する、及びヒメトビウカが多い地帯、保毒虫率が高い地帯では本田防除を検討する。
ムギ類	うどんこ病	並	出穂期前後の降雨で発生が助長されることがあるので注意する。
ウメ	かいよう病	並	現在までの発生量は平年並。
	黒星病	並	現在までの発生量は平年並。
施設果菜類	灰色かび病	並	現在までの発生量は一部でやや多いが平年並。 発病葉や発病花、発病果は伝染源となるため速やかに取り除き、施設外に持ち出して適切に処分する。
	コナジラミ類	並	多発後は防除が困難になるので、早期防除を心がける。
キュウリ	べと病	並	肥料切れや草勢の衰えにより発生が多くなる。適正な肥培管理を行う。
	うどんこ病	並	多発後は防除が困難になるので、早期防除を心がける。
イチゴ	ハダニ類	並	多発後は防除が困難になるので、早期防除を心がける。
夏秋キャベツ	コナガ	並	現在までの育苗ほにおけるトラップ誘殺数は平年並。 苗へのコナガの寄生が心配される場合は防除を行ってから採苗する。



詳しい病害虫情報はこちらから
(病害虫発生予察情報一覧へリンク)

<https://www.pref.gunma.jp/page/20720.html>

★農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている使用方法、注意事項等を確認して適正に使用してください。